

助成事業完了報告書
日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2024年4月11日

事業ID:2023005734
事業名:東京都青梅市における「子ども
第三の居場所」
コミュニティモデルの運営(2年目)
団体名:特定非営利活動法人
青梅こども未来

代表者名: 白井 順子
TEL:0428-78-0762



事業完了日:2024年3月31日

■ 契約時

事業費総額	:	7,160,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	7,160,000 円

箇所は「収支計算書」より自動転記

■ 事業完了時

事業費総額	:	7,050,011 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	11 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	7,050,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	110,000 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 東京都青梅市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2023年4月1日～2024年3月31日
(週3日、14時から19時までの開所)
(2)場所:東京都青梅市
(3)対象:子ども15名(家庭や自身に課題を抱える小学校低学年を中心)
(4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。「子どもの居場所」や「地域多世代交流の場」として、乳幼児親子から高齢者まで多世代で交流できる場を提供する。青梅の自然を活かした自然遊び、感覚統合を意識した軽い運動遊び、非認知能力を育むボードゲーム、タブレットでのプログラミング学習、地域の伝承遊びや行事への参加、シニア世代に夜クッキング講座、手作りおもちゃ・クラフトの素材と政策の場を提供する。



(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 東京都青梅市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2023年4月1日～2024年3月31日
(週3日、14時から19時までの開所)
(2)場所:東京都青梅市
(3)対象:子ども15名(家庭や自身に**生きづらさ**や課題を抱える小・中学生を中心)
(4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完できた。「子どもの居場所」や「地域多世代交流の場」として、乳幼児親子から高齢者まで多世代で交流できる場を提供した。感覚統合を意識した軽い運動遊び、非認知能力を育むボードゲーム、地域の伝承遊びや行事への参加、シニア世代によるクッキング講座、手作りおもちゃ・クラフトの素材と制作の場を提供した。

(3)成功したこととその要因

スタッフが徹底して子どもに寄り添った結果、子ども発信で居場所の存在が対象者に広く認知され、居場所利用につながっている。関係機関へ情報共有の働きかけを継続し、報告を主としたおたよりを12回発行、利用者と関係機関へ配布、関係者会議を7月26日と2月14日に開催し、大人の信頼を獲得することに努めた。

(4)失敗したこととその要因

天気と気温の影響を大きく受けた年だったため、青梅の自然を活かした自然遊びは実施できなかった。タブレットでのプログラミング学習は、講師との調整がつかず、実現しなかった。

(5)事業内容詳細

事業内容実績報告は、別途添付(関係者会議で使用した実績報告を添付予定)

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

1. 多世代交流、感覚統合を意識した遊び
①時期:2023年6月10日、7月8日、10月14日、11月未定、
②場所:東京都青梅市
③参加者:50名(小学生以上、地域の方々、保護者と同伴の幼児)
④内容:大縄跳び、縄跳び、シャボン玉、キャッチボール、モルック。遊びとその道具を提供
2. 個別対応重視、社会的相続の補完活動実施
①時期:2023年4月～3月末
②場所:東京都青梅市
③参加者:2290名(小学生以上、地域の方々、保護者と同伴の幼児)
④内容:ボードゲーム、タブレットの貸し出し。手作りおもちゃ、クラフト素材の提供。伝承遊び。ボランティアとのかかわり。



(2)事業内容の実施(完了)状況

1. 多世代交流、感覚統合を意識した運動遊び
①時期:2023年6月17日、7月8日、10月14日、11月14日
②場所:東京都青梅市
③参加者:57名(小学生以上、地域の方々、保護者同伴の幼児、)
④内容: ボランティア含め大人の手が多くあったので、大縄跳びを回したり、モルックの審判をしたりエリア別の遊びを展開した。幼児からシニアまで、一緒に楽しんだ。
2. 個別対応重視、社会的相続の補完活動実施
①時期:2023年4月～3月末
②場所:東京都青梅市
③参加者:2180名(小学生以上、地域の方々、保護者と同伴の幼児)
④内容:契約時の内容に加え、塗り絵、イラスト、グッドトイの提供実施。

(3)成功したこととその要因

1. について: 7月8日以外は、運動広場での活動。地域の方々やボランティア等大人の手があり、小学生集団とは異なる遊びや運動ができた。大人は管理者としてではなく、見守りと一緒に遊ぶことに専念した。室内では、非認知能力をフル稼働させるボードゲームに挑戦し、学校や学年が異なる参加者同士が仲良くなれた。大人が真剣に取り組んだので、勝負に関係なく子どもの満足感が高かった。
2. について:スタッフとボランティアで、注意、指示、禁止をしないことに心がけてきたため、子どもたちに、否定されない場所として、認知された成果と思う。

(4)失敗したこととその要因

1. 2. とともに、失敗したことはなかった。反省としては、熱中症注意報・警報に伴う外出制限の発令、台風並みの暴風・豪雨、積雪注意報、感染症の増加等、自然に振り回される日が多くあり、それぞれの対応についてのスタッフ間の共通理解が後手に回った。

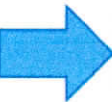
(5)事業内容詳細

報告書別添

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

- 生活習慣形成と学ぶ意欲の向上
①時期:2023年8月19日、9月9日、11月11日、12月、1月13日、2月10日、3月9日
②場所:東京都青梅市
③参加者:小学生60名
④内容:煮干しの解剖講座、地域の防災、作って食べよう、リノベーション挑戦、日本文化を学ぶ、伝承遊び、防災学習



(2)事業内容の実施(完了)状況

- 生活習慣形成と学ぶ意欲の向上
①時期:2023年8月19日、11月11日、12月12・23・28日、1月13日、2月月間、3月9・26日
②場所:東京都青梅市
③参加者:小学生237名
④内容:煮干しの解剖講座、作って食べよう、ことばであそぼう、地域の歴史、伝承遊び月間、防災学習

(3)成功したこととその要因

利用者の様子や地域・関係者の状況に合わせて、事業内容を検討し、柔軟に実施することにスタッフが努めたこと。

(4)失敗したこととその要因

失敗はなかった。反省点は、それぞれの報告書に記載しているため、添付資料参照。

(5)事業内容詳細

報告書別添

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

契約時なかった事業

(2)事業内容の実施(完了)状況

1・Toyクリエイターによるイベント
①時期:2023年4月29日
②場所:東京都青梅市
③参加者:33名(小学生、保護者同伴の幼児)
④内容:コロコロドミノ制作(木製キット使用)、紙コップワークショップ(鉄の使い方)
2. 関係者会議
①時期:2023年7月26日、2024年2月14日
②場所:東京都青梅市
③参加者:40名(行政・地域・学校・ボランティア等
関係者:7月21名、2月19名)
④子ども第三の居場所の広報。青梅市拠点の概要・実績報告・関係機関との情報交換。こどもまんなかの多世代交流実践。



(3)成功したこととその要因

1, 2ともに、関係者からの希望で企画、実施となった。準備期間は短かったが、内容は盛りだくさんで、参加者の満足度が高かった。

(4)失敗したこととその要因

当日のタイムスケジュールが決定したのは、開始直前であったため、スタッフ間の共有が間に合わなかった。また、参加者に明確なスケジュール表を示せなかったため、時間配分についての不満が出た。

(5)事業内容詳細

別添資料参照

2. 契約時事業目標の達成状況:

(1) 助成契約書記載の目標

- 1、2023年3月31日までに1日平均利用数を15名、乳幼児の利用は、1日平均5組とする。
- 2、ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供。
- 3、子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に9回実施する。

(2) 目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	520	文字数チェック	OK
1の達成状況:1日の平均利用者数は、16名となり、目標を100%達成した。乳幼児親子の利用は、平均2組で、目標の40%となった。			
2の達成状況:ボランティア説明会は3回実施、現在7名活動、20名が目標なので35%達成。行政関係課と地区の学校へはおたよりを持参したときに情報共有のための時間を取ってもらえたこと延べ90回。			
第1回関係者会議(7月)の参加者17名。第2回関係者会議(2月)の参加者19名。見守り連携7ケースである。関係構築については、21の関係機関中12機関と情報交換ができており、7機関とは情報共有ができていますので、90%達成。多世代交流の機会は、外遊び、おもちゃの広場、ボランティア参加行事すべてをその機会としているので、参加率としては100%達成だが、参加人数が伸びなかったもので、50%達成とする。			
3の達成状況:事業期間内に11回開催した。100%の達成。4月、8月、11月に講師による特別体験の講座を実施。6月、10月、11月は思いっきり外遊び、12月、1月、2月、3月は、日常につながる、または日常に使える体験のイベントを開催した。イベントで利用したもの利用者からリクエストされ、日常活動で使えるようになっている。			

3.事業実施によって得られた成果

初利用の子どもは大人を「先生」と呼ぶが、「先生はいない」ことを説明する。対等であることの一步として大人も子どもも名前呼び合う。大人によって管理された場ではないことがみてわかる例である。一人で来て一人で過ぎて帰る子もいる。出会った誰かと遊んで帰る子もいる。学校でもない、家庭でもない、塾でもない、友達の家でもない、何でもない居場所として、子ども達には認知されてきた。フリースクールか、不登校の子の居場所と思っている学校関係者や保護者が一定数居るので、スティグマをなくすためには、後2年間くらい実績が必要かもしれない。2027年3月頃には、多世代が交流できる、子どもまんなかの地域社会の拠点になっていると見込まれる。

・2025年4月に、自治体の補助金を得るか、共同運営になっていることを見込んでいる。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応策

課題:1. 広報と運営のための専用の時間をスタッフに保証することが難しい。開設日用のスタッフと子ども第三の居場所拠点事務のためのスタッフ確保が精一杯である。
2. スタッフが寄付をいただくための広報に慣れていない。
3. 専門的な知識と経験をもとに対応が求められる場面がある。

対応策:1. 学生アルバイトや有償ボランティアの受け入れる。
2. NPO法人と寄付についてスタッフで勉強する。認定NPOを目指す。
3. ケースの共有とケース検討会実施。有資格者と外部講師による研修の実施。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

完了報告書

(2)事業完了時の成果物名称

- ・みらくる開設広報チラシ:3種類、合計2000枚
- ・みらくるだより10号~21号:各140部
- ・イベントポスター:10枚
- ・近隣へのご挨拶「子ども第三の居場所みらくる開設のお知らせ」:3種類、40部
- ・みらくる概要:1種類、200部
- ・ボランティア活動について:3種類、各20部
- ・利用についてのお願い:SNS、HP。
- ・体調不良等連絡票:1種類、使用時に配布。
- ・PRTIMES配信
- ・HPのサブドメイン取得し、作成発信。
- ・関係者会議実績報告書(含pp資料)
- ・完了報告書・青梅市ジェンダー平等情報誌「よつばの手紙」掲載

(3)未作成となった要因

ないです。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

<https://kodomomirai-ome.com/mirakuru/>

[http://prtimes.jp/](http://prt看mes.jp/)